

大会名 Competition	第36回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-105	Year Month Day Time 2023 年 5 月 3 日 17 : 30
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA 前橋育英 83 ●	20 1st 27 16 2nd 19 20 3rd 35 27 4th 27 0 T	チームB 能代科技 108 ○
-----------------------------	---	------------------------------

主審:Crew chief
伊藤 陸哲 岩手
副審:Umpire
澤野 卓朗 青森
伊勢 友春 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
市役所

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	高草木	琉斗 cap	15	2	4	1	2	4	×	中野	珠斗 cap	15	0	7	1	2
5	／	ディアロ	阿慈素	0	0	0	0	2	5	×	関口	創介	7	0	2	3	3
6	×	下山	純也	3	0	0	3	3	6	×	大高	琉翔	10	0	5	0	1
7	×	木暮	凌汰	10	2	2	0	4	7	×	伊藤	賑一	16	3	3	1	1
8	／	増田	聖大	10	0	2	6	2	8	×	佐藤	楓生	6	1	1	1	2
9	／	元木	琉生	5	0	2	1	1	9	×	小田	崙斗	26	5	2	7	2
10	／	吉野	綾馬	2	0	1	0	0	10	／	山本	倭也	2	0	0	2	2
11	／	菊谷	宗右	3	0	1	1	1	11	／	岸	真矢	13	0	5	3	2
12	／	片桐	柗哉	2	0	1	0	0	12	／	山本	威吹	0	0	0	0	0
13	×	レバン	ハオ	9	0	4	1	3	13	／	小玉	羽竜	7	1	2	0	0
14	／	永井	陸翔	0	0	0	0	0	14	／	見上	匠	6	0	3	0	1
15	／	丸山	颯太	4	0	2	0	0	15	／	山崎	七星	0	0	0	0	0
16	／	新井	呂依	8	2	1	0	2	16	／	畠山	悠仁	0	0	0	0	0
17	／	山崎	創志	2	0	1	0	0	17	／	宮田	蒼羽	0	0	0	0	0
18	×	原澤	快吏	10	1	2	3	2	18	／	清水	祐清	0	0	0	0	0
コーチ		田中	亮多					0	コーチ		小松	元					0
								0	コーチ		長谷川	聡					0
合計				83	7	23	16	22	合計				108	10	30	18	16

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	15	18.07%	高草木 琉斗
2	10	12.05%	木暮 凌汰
3	10	12.05%	増田 聖大

1	26	24.07%	小田崙 崙斗
2	16	14.81%	伊藤 賑一
3	15	13.89%	中野 珠斗

Score ranking[Game]

1	26	小田崙 崙斗	能代科技	2	16	伊藤 賑一	能代科技	3	15	高草木 琉斗	前橋育英
									15	中野 珠斗	能代科技

1Q、両チームがマンツーマンディフェンスでスタート。前橋育英は#4高草木を中心に攻め、初めの5分で11-5とリードする。能代科技は、メンバーチェンジで早い展開にもち込み、リズムをつかむ。能代科技は、残り2:15、#7伊藤の3Pシュートで16-18と逆転すると、終盤は#4中野がドライブで加点し20-27とリードを広げて1Qを終える。

2Qも序盤は能代科技のペース。#5関口がリバウンドをがんばり、セカンドチャンスからの得点を重ねる。前橋育英はタイムアウトで挽回を試みるが、25-42と点差を広げられてしまう。ここから前橋育英はミドルレンジからのジャンプシュートを#11菊谷や#8増田が決めて追いかけて36-46と点差を10点まで縮めて前半を終える。

3Q、能代科技は#4中野、前橋育英は#13レバンが得点を重ね43-52となった後、早い段階で前橋育英はチームファウルが4つになってしまう。ここから能代科技は#9小田崙が5本のフリースローを全て決め、3本の3Pを決める16得点の大活躍。前橋育英も#4高草木が3Pを連続で決めるが、能代科技の流れは止められず56-81と能代科技がリードを大きく広げて3Qを終える。

4Qは、ディフェンスで目立っていた能代科技#8佐藤が3Pを決め、交代した#13小玉が7得点するなど、得点が100点を超える。前橋育英も#7木暮が2本の3Pを含む8得点、#18原澤もゴール下のシュートなどで追撃したものの83-108で能代科技がこの一戦で白星を勝ち取った。

能代科技は、ディフェンス、リバウンド、ルーズボールからの速攻という伝統のスタイルを見せた上で、初日を2勝と期待が膨らむスタートを切った。